

市が阿寒湖へのカジノ誘致をあきらめていないことをご存じですか？

IRの認可に長崎が落選
次の募集に望みをつなぐ!?

カジノ誘致「第一幕」の顛末

多くの市民の反対世論に耳を貸さず、阿寒湖温泉地区にカジノ（統合型リゾートIR）誘致を進めた蝦名市長。

北海道は、道内で最後まで誘致の旗を掲げた続けた釧路市の阿寒湖温泉地区、苫小牧、留寿都の3地域について、収益性等を比較検討しました。結論は、苫小牧が最も収益性が高く、阿寒湖は格段に劣るとの結果。道内での申請は1か所と見られていただけに、阿寒湖の可能性は急速にしばむことになりました。



そうした中、釧路市は、H30年2月に苫小牧市との間で確認書を取り交わし、「道内第一号のカジノ・IRは苫小牧市が候補」と合意、苫小牧への誘致に協力することを突然、発表したのです。誘致合戦の白旗です。しかし、知事が変わり、「道内第一号は苫小牧」という大号令をかき消すような事件が起きました。カジノの候補地選定に深くかかわっていた秋元司衆議院議員（当時）が、カジノ企業から多額のわいろを受けた「汚職事件」が発覚したのです。

結局、北海道は道民の反発で国へのIR申請そのものを凍結。阿寒湖へのカジノ誘致の第一幕は、これで終演となったはずな

カジノ誘致予算3・5万円

今年度も

市はずっと次のチャンス
を待っていました。その証拠に毎年、当初予算にIR関連の予算を計上

し続けてきたのです。しかも数万円と少額。村上かずしげ議員は、予算審議の中で、「この機会にカジノ・IRの予算を全面削除せよ」と求めました。市の答弁は驚くものでした。

「予算は旅費として計上しているが具体的な出張が決まっているわけではない。IRは現在、大阪しか認可されていない。（長崎のハウステンボスが落選したということ）2か所の選定・再募集にも期待しており、阿寒湖にIRをと考えている」と答弁したのです。長崎が落選して、チャンスが巡ってくるかもしれないとの認識です。

カジノ反対の市民運動が再び必要な時がきました。カジノの芽を完全に摘み取るまで、世論を広げましょう。

村上かずしげ通信

2024. 4. 21
発行 日本共産党議員団

